

第7日

令和8年6月17日（水）

午前10時50分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、9番鹿毛哲也議員の質問を許可します。9番鹿毛哲也議員。

（9番鹿毛哲也君登壇）

○9番（鹿毛哲也君） 皆さん、おはようございます。本日2番目の質問の許可を得ました9番鹿毛でございます。まずもって傍聴に来てくださった方々、本当にありがとうございます。また、インターネットで御覧くださってある方、本当にありがとうございます。まずもって、中島市長、当選おめでとうございます。朝倉市発展のために共に頑張りたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

本日は、旧堰撤去に伴う農業用排水路及び小石原川の災害対策について。それから、市長の公約についてを議題とし、一般質問を行います。重複する部分があるかもいたしますが、御容赦をよろしくお願いいたします。

以下、質問席より質問を続行させていただきます。執行部におかれましては明確な答弁をよろしくお願いいたします。

（9番鹿毛哲也君降壇）

○議長（小島清人君） 9番鹿毛哲也議員。

○9番（鹿毛哲也君） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきたいと思います。

まず、旧堰撤去に伴う農業用排水路及び小石原川の災害対策についてですが、両筑平野用水のつなぎ込み水道事業についてですが、小石原川に残っている旧堰からの取水を停止し、旧堰を撤去するためのつなぎ込み水路の工事が福岡県朝倉農林事務所で今実施されておりますが、まず小石原川係、馬田地区のつなぎ込み水路工事の現状と今後の予定を改めて伺いたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 馬田工区におきましては、県営農村総合整備朝倉二期事業として、令和4年よりつなぎ込み水路事業に着手をしております。現在も進捗が図られており、少しでも早い完成を目指しております。これまでに8か所が完成しており、現在は試験通水中です。残りのつなぎ込み水路が完成すれば、その都度、試験通水へ移行していく予定となっております。以上です。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 今、試験通水中というふうなことでございますが、実際に水の状況はどのようになっているのかお尋ねいたします。ちゃんと流れているのかどうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先日、私も現地を担当課と一緒に回らせていただきまして、まだ水量が少し足りなかった部分もあったと思っていましたが、きちんと流れているというふうに認識いたしました。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） つなぎ込み水道事業につきましては、旧堰の取水停止・旧堰の撤去とつながる極めて重要な業務と認識をしております。小石原川の馬田地区ではつなぎ込み水路工事が今も進められておりますけれども、水道から水田に水が乗る中、上流からの水が水田まで届くのかという心配が地元のほうで出ております。朝倉市は朝倉農林と一緒に地元調整をしていると思われそうですけれども、農家の心配をどのように認識しているのか伺いたい。それから、これらのテーマを農家に理解してもらわなければ旧堰からの止水停止となり旧堰撤去にはつながらないと私は危惧をしております。そのあたり、市長、どのように思われますでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先ほど申しましたように、実際に私も現地で確認をさせていただきました。鹿毛議員が代表として御心配をなさっているというのは、よく理解ができます。そしてまた、農家の皆様の御心配というのも私は市長として承知をしております。水路の底盤は水田の高さに合わせて完成していることを私自身も確認いたしました。水路に堰板を設置する設計となっており、農地への取水は十分可能だと思われそうです。馬田工区のつなぎ込み水路は上流の甘木頭首工から水が配水されることとなっておりますが、非常に距離が長いため、特に用水需要が集中する代掻き、田植え期に本当に水が届くのかという声が農家の皆様から出るというのは承知しております。これらの心配は解消しなければならないものであり、まずは通水試験で明らかにするべきと考えております。水利使用規則では、堰からの取水の許可期間が令和11年までとなっておりますので、それまでに水路が完成できるように福岡県、水資源機構、朝倉市が一体となって取り組んでまいります。3年間試験をしたいというふうに御地元のほうが希望してあるという報告も私は受けております。以上です。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） 市長、確認ですけれど通水試験をして地元がそれではちょっと足りない、納得いかないとなったときにオーケー出しません。そうなったときにどのようにされるのかをお尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 仮の話なんですけれども、しかし、それでも水が届かないというふうになった場合は、利水者とよく協議の必要があるかと思っております。そして、善処策を講じていかないといけないと考えております。例えば、水が届かないということであればポンプを設置するなどそういったことを考えていかなければならないと考えておりま

す。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） 非常に馬田のほうの農家の方は心配をされております。そのことを踏まえながら、通水試験をしっかりとやられて、地元がもし少しでも違和感とかちょっとここはというふうなことがあったら、それは聞き入れてもらえますでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 鹿毛議員、それから地元の皆様が御心配のというのは本当によくわかっております。私も一緒に危機感を共有しているつもりですので、そここのところは御理解いただきたいと思います。危機感は共有させていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） ありがとうございます。力強いお言葉をいただきまして。何でもそんなことを言うかといいますと、2 番につながっていくわけですけど。洪水、氾濫の危険と防災についてということで、6 月 4 日に梅雨に入りました。昨年秋から少雨が続いておりましたので、上流の江川ダム、小石原川ダムはまだ空き容量があると思いますけれども、小石原川ダムはひと雨で満水になったことも過去にはあったと記憶をしております。つまり、梅雨の程度によってはダムはすぐに満水になり、一転して緊急放流の可能性もないわけではないと考えております。小石原川には江川ダムより下流に古処山川や甘水川、長谷川等の小石原川に合流する支線があり、大雨が降ると小石原川のダム放流と一緒に下流に流れ込みます。このようなときに馬田地区の小石原川は水かさが増して、堤防を洪水がこすのではないかと危惧する状況となっております。まずは、小石原川の掘削と河川整備を緊急課題として進めてもらいたいと思っております。結局一番のこのつなぎ込み水路ができないと、旧堰の撤去ができないわけでございます。これにつながっていくので、2 つを合わせて本当に危惧をしているような状況です。市長も 1 回見られてください。コミュニティの裏のところとかも非常に低いです。

それと、牛木のところとか 1 回越水したんですけど、旧甘木町側は高く、堤防は、牛木側は低いんです。そのような状況で住んでいる皆様方は非常に怖がっているというか、そのような状況になっていて、小石原川の流域で一番危ないのは馬田だと言われておるぐらいでございますので、その辺りをどのように考えておられるのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 鹿毛議員がおっしゃられた堤防が低いところ、そこは私も担当課に連れられて現地は確認をいたしました。確かに低いので御心配だろうなと思いました。そしてまた、温暖化や気候変動によって我々の想定が変わってきている。想定外ということが当たり前に起こるような時代になっていましたので、この現実には直視しないといけなと考えております。小石原川ダムが完成いたしまして、洪水調整機能というのは加わりましたので、この点においては一定の安堵を市長としてしております。しかし、先ほど申

し上げましたように、近年の豪雨、さらには温暖化を伴う気候変動も考慮しないとならない事態が現実となっております。

小石原川についての河川整備が急がれていることは十分認識しておりまして、重要課題と考えております。状況改善のためには、河川整備が進められる条件の整備が必要と認識しておりますので、地域の協力をいただきまして、担当する福岡県朝倉農林事務所にはつなぎ込み水路の工事、旧堰取水の停止、それから旧堰の撤去という課題を令和11年までに解決していただきたいと市のほうも考えております。この点については地元と協力しながら市も一緒にやっていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） この件につきまして農林事務所、それから福岡県のほうに話されましたでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 水関係の農林事務所であつたりというのは、会うことが私も市長になって初めて分かったんですけれども、非常に多くございます。そのときに協力をお願いすると同時に、私たちも朝倉市として協力をいたしますと。そして、今回令和11年という期限が切られていますので、ぜひともこれを守っていただいて、一緒にそれを目指していきましょうということはお話をさせていただいております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） よろしく願いいたします。福岡県、それから水資源に対しまして、話を進めていただきまして、早急に整備を進めていただきたいと思っております。馬田の住民は非常に心配しております。

それでは、次に入りたいと思います。市長の公約についてでございますが、まず若い力の流出のストップについてで、若者の流出に歯止めをかけることを朝倉市の最重要戦略課題とされておりますけれども、具体的にいつまでにどのようなことをされるのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 若い力の流出を止めるためには、私は若い方に定着をしていただきまして、出て行かれた方々のUターンを促す環境づくりをしていくことが大切だと考えています。雇用の受皿となる企業支援を進めるとともに、地元企業の活性化や事業継承を支援していきたいと考えております。

また、それだけでは不十分でありまして、子育て支援や女性の支援を充実させて、暮らしやすい町だというイメージを定着して、魅力を高める必要があると考えております。若者が朝倉に根を張ってもいいなと思うような、そういった環境を整える必要があると考えております。これを実現するために、まだまだ詳細な事業内容は現在精査を進めているような状態ですが、実施可能な政策については、先ほど柴山議員の言葉もありましたように、

スピード感を持って直ちに着手をしたいと考えております。今後4年間の明確な全体スケジュールを早急に策定し、職員と一丸となって着実に推進していきたいと思っております。政策のPDCAサイクル、プラン・ドゥー・チェック・アクションです。やはり私はまだ着任したばかりなので、今はプランの時期なのかなと考えております。ただ、急いでやらないといけませんので、結果が出ませんので、急いで着手したいと考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひ早急に進めていただきたいと思いますし、一般質問の中で住みたい都市に朝倉が上位のほうにあるという話が出ていたんですけども、私、先日、T i k T o kを見たら、消滅可能都市に朝倉市入っているんです。それからうきは市も消滅するんじゃないかと。まだまだ災害の傷跡が多く残っているというふうなのがT i k T o kで出ておりました。このようなのを市長は御存じでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 残念ながらT i k T o kで消滅可能性都市に入っているというのは存じ上げませんでした。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 私もびっくりしたんです。うきは市が出てきたと思ったら今度は朝倉市というふうなことで。まだまだ災害の傷跡が重くのしかかっているというふうなと人口減少のことが出ておりました。ぜひ調べてみられるといいと思います。T i k T o kは結構影響力があるものですから、そんなのを見ると若者は来たがらないですね。そのようにちょっと心配をしたわけでございます。

それから、シビックプライドの醸成というふうなことを言われておりますけれども、シビックプライドを調べてみると、地域住民に根付かせることが非常に難しいというふうにされておりますけれども、具体的に何をどうするのかお考えをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私が考えるシビックプライドというのは、先ほども柴山議員の質問のときに言わせていただきましたけれども、朝倉市にマジになる人、真面目になる人、本気になる人、そして朝倉市のために行動する人、これが私はシビックプライドであると思っております。そして、このシビックプライドを持つ市民が1人でも多く増えてほしいなと思っております。

若い方が朝倉市外に出ていくのは、やはり若者ですので都会への憧れとかそういうのがあって一定数仕方がないのかなと思っております。ただ、一度市外に出た人が最終的には朝倉市に帰っていきたくと思える町をつくるのが私は大切なことだと思っております。やはり朝倉がいいとか、ここで子育てがしたいとか、そういったことを思ってもらえるかそこが非常に大事だと思っております。それは単に仕事を準備するとか子育て支援の施策をたくさん準備するとかではなくて、私はこんなことを考えています。子どもの頃に朝倉

で濃密な体験をするというのが必要ではないかと思っております。単純な例なのかもしれませんが、体育祭の練習がきつかったとか体育祭が楽しかったとか。私は十文字校区なんですけれども、遠行会で英彦山まで十何キロも歩いたけれどもあのとき楽しかったとか、そういったことをこの町でしかできないようなそういった思い出、濃密な経験が私は郷土愛の原点になると考えています。ですから、学校教育や地域の中の活動を通して、自然や、朝倉の人は温かいですので、人のつながりなんかで濃い体験を積んでもらう。それが将来外に出たときに、やはり朝倉しか自分には居場所がないよね、朝倉を居場所にしたいね、と思い出すようなそういったきっかけになるのではないかと考えています。

私は最近の若い方は、昔に比べたら地元への愛着が非常に強くなっている、確実に地元愛というのが増えているというふうに思っておりますので、仕事や住まいの準備や子育て支援とかの組み合わせをして、背中を押してあげることでインセンティブを与えてあげることで、若者に選ばれる町朝倉になるということは十分可能であると思っておりますし、実現したいと考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） シビックプライドと地元愛・郷土愛の違いを調べてみました。シビックプライドとは特定の地域に誇りを持ち、その地域を良くするために貢献しようとする自負心がシビックプライドと出ておりました。そして、地元愛・郷土愛は、生まれ育った故郷に対する愛情。この郷土愛とか地元愛は醸成しやすいと思うんですけれど、やはり地域を良くするために貢献しようと思うためにはどのようにしたらいいとお考えですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私はやはり人の輪といいますか、声かけが必要だと思います。これ、すみません、ちょっと思いつき的なことなんですけれども、去年の3月雨の中、柴山議員に誘われまして川添遺跡の環濠の清掃活動をしました。あれは柴山議員から、3月じゃなくてその前でしたか、誘われなかったら多分私は行ってないと思いますけれども、でも、やってよかったなと思いますし、朝倉に貢献できたなと自分でも思いましたので。そういうやはり一緒に貢献しようよという声かけであったりとか、あとやはり1人では力が小さいですので仲間であったりとか、そういう人の輪というのが大事ではないかなと思っております。

郷土愛とシビックプライドの違いというのは、鹿毛議員がおっしゃったように、そこに実際に行動が伴うかどうかが大事ですので、行動し続けるということ、声かけをする、そして一緒にやる仲間がいれば辛さも少し減るのではないかなと思っております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 私もシビックプライドのことを考えると非常に難しいなと。そうするためにも、やはりキーマンが私は必要ではないかと。キーマンの育成とかは考えていらっしゃると思いますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 具体的にと言われるとちょっと弱いかもしれませんが、まず各業界と言ったらいけませんけど、分野に、この人はキーマンになるなと思う方はいらっしゃいます。ただ、その方々が持っている力を十分に発揮できているのかなと思いますと、できていないんじゃないかなと思うところも少しあるものですから、そういう方に私が市長として一緒にやっていきましょう、応援いたしますから伸び伸びとやってください、言いたいことを言ってくださいと。そして、できること、できないこと、もちろんありますけれども、まずは話を聞いて一緒にやっていきましょうということは言っていきたいというふうに考えております。そして、物事というのはやはりいろんな団体が朝倉市にはたくさんありますけれども、どの団体も団体の高齢化というのを迎えているなというふうに思っておりますので、そこは一緒に考えていかないといけないんですけれども。若い方がやっぱり入ってこない、それは持続可能ではありませんので、どうやったら若い人に関心を持ってもらえるのか、考え方も随分やっぱり違うでしょうから、若い方と。そのところは突き詰めて、今の時代にあったキーマンの育て方というのを見つけていかないといけないなと感じております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひ今市長が言われたようなことも踏まえて、キーマンの育成もやはりこれ必要だなと感じておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次の質問に移りますけれども、先ほども一般質問に出ておりました、隣の筑前町が人口増に転じているというふうなことでございましたが。私は隣の大刀洗町も人口増に転じているというふうに思っております。隣同士に2つ囲まれて人口増のところがあって、朝倉市は人口が減少しているということについてどのようにお考えかと、どうしていきたいか、そのあたりをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 昨日も申し上げましたけれども、このニュースを見ましたところ正直悔しいなと思いました。そして、負けるもんかと思っております。人口が増えることが必ずしも正義といいますか、正しいことではないかもしれませんが、ただ、この地域には朝倉には間違いなくポテンシャルがある、可能性がある。それは筑前であつたり大刀洗が人口が増えているということが私は証明していると思っておりますので、この圏域には人を惹きつける魅力があると思っておりますので、本市もその可能性を十分生かして、大刀洗、筑前に追いつき、追い越したいと考えています。

他市のいいところを、先ほども言いましたように、真似をしまして、取り入れまして、そして朝倉のふうに真似をすることによって、朝倉流に変えていきまして施策を展開していきたいと思っております。若者に選ばれる自治体、安心して帰ってこれる自治体、老後を迎えたい自治体、そういう自治体になりたいと考えています。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） ぜひその辺りも進めていっていただきたいなと。古賀課長が大刀洗町出身で、大刀洗町のことが非常に詳しいのでぜひ話をしてみてください。大刀洗町は、私も 1 回タウンミーティングみたいなのところに行ったんですけど、住民と対話を非常に頻繁にしております、各地区で。そのようなことをやっていくことで満足度が上がるんじゃないかなと。満足度が上がるとやはり人が来るというふうにつながっていているんじゃないかなというふうに思いますので、その辺りぜひ真似をしてみてください。

それでは次に、雇用の創出と子育て支援の充実は課題解決するための両輪というふうにされておりますけれども、いつまでにどのようなことをされるのかお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、雇用の部分につきましては、先ほど今までの質問と重複する部分があるんですけども、まずは若い人に向きましては、企業支援、スタートアップですね、そういったことが必要ではないかなと思っております。そして、市民の皆様の御希望が多い企業進出、これについては市長としてトップセールスをして、その環境を整えていかないといけないと思っております。今は働き方がいろいろ多様化しておりますので、それに合わせた大企業に勤めたいという方もいらっしゃる、地元でワーク・ライフ・バランスを保ちながら働きたいという方もいらっしゃいますので、それぞれのニーズをきちんとつかみまして、中小企業の皆様は人手不足があるということをおっしゃっておりますので。その部分についても市としてこういう業種がありますよと、そういったことをしてその雇用の機会を生かしていかなければならないと思っております。

また、子育て支援につきましては子育てがしやすいというイメージを持ってもらうことが必要なかなと思っています。そのためには、子育て世代の声を丁寧に聞いて、支援をする施策を打っていかなければなりません。その第一歩といたしまして、子ども医療費の助成対象を高校生まで拡大をいたしました。そして、予算の補正をお願いしておりますので、こういったことから少しずつ積み重ねていきまして雇用の創出と子育て支援の充実を一体的にやっていきたいと思っています。私まだ財政のことをもう少し勉強させていただきまして、やはり支援の部分というのは財政の支出を伴うものですので、本当にそれが長く支援ができるのか、市長の思いだけで一時的に一気呵成にやってしまうというのは、長い目で見ると朝倉市の体力を弱めるという可能性もありますので、長く支援ができるような、こういったものにあるのかというのを見極めてから、支援策というのはスタートさせていただきたいと考えています。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） 支出があればもちろん収入がいるわけです。それから、この前の財政の見通しで基金もだんだん厳しくなっているというふうな話も聞いております。そのような中で支出を増やしていくということは、それなりに朝倉市の体質を奪うというか、

そのようにもなりかねないと思いますが。収入を増やすということについて、それから基金を確保するという点についてどのように考えていらっしゃるのか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 歳入を増やすということは税収を増やすということになりますので、このところは市長として頑張らないといけないなと思っております。会社の経営もそうなんですけれども、支出の部分を減らすというのは非常に限界があります。一定のところまでは絶対減らせませんので。じゃあ、最終的に黒字を保つためには収入を増やす、売上げを伸ばす、税収を増やすということしかないと考えております。私はこういう考え方をしております。短期的、中期的、長期的に税収を増やすという方法を考えていないといけないと思っております。短期的にはやはりふるさと納税であったりとか、こういったものの税収を短期的に増やすということが必要だと思っております。ふるさと納税、朝倉市は結構寄附をしていただいておりますので、なかなかもうそろそろピークに来ているのかなと思っておりますけど、これをある程度維持していかないといけない。これがなくなると非常に痛手を被ると思っております。

中期的には、やはり観光とかこういったものでたくさん人に来てもらいまして、朝倉市にお金をおとしてもらって、そこで経済が回ることによって税収を増やしていく。こういったことが必要ではないかと思っております。ですから、そのためにはやはり朝倉市のPRであったりとか、そういったことを力を入れていって、観光であれば朝倉市の魅力に磨きをかけるような形をしていきたいと考えています。長期的にはやはり企業誘致であって、企業に進出をしてもらいまして、固定資産税を増やすとかこういったことをやっていかないといけないと思っております。ここが、私が一番市長として動かないといけない部分だと思っております。

そういった中で、先ほど大刀洗、筑前が出ましたけど、私のイメージなんですけれども、やはり情報発信がうまいなと思っておりましたので。今はそういう情報発信というのは大事な時期といいますか、時代になりましたので、そのところも力を入れていかないといけないというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひ進めていってもらいたいというふうに思います。

それでは次に、企業支援でスタートアップの支援というふうなことを先ほども一般質問で出ておりましたが、パソコン1台でできる企業というふうに言われておりました。それ以外の支援策をどのように考えておられるか。というのが、やっぱりパソコン1台でできる支援と言いながらも、少人数でやる場合、やはり企業のスタートアップって非常に難しいと思うんです。ですから、例えば家賃を一定額補助するとか、Wi-Fiの無料接続とかをするとか、そのような市の助成とかがないとなかなか根付かない、それからもちろんメンターも必要だと思われます。その辺りも含めて、市のほうとしてどのような支援を考

えてあるのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まだそこまで実は具体的には考えてないんですけれども、私はパソコン1台ということで申し上げさせていただきましたので、それは旧朝倉町役場、杷木町役場を開けたままにずっとしておくというのはやはりもったいないですので、何とか活用したいというふうに考えています。そういった中で若者支援をするのであれば、スタートアップを支援するのであれば、そこに何らかの家賃の免除とかそういった部分は必要ではないかと思われまふ。ただ、まだ具体的にそこまでは詰めてないんですが、ただそれともう1つは、やはり柴山議員の質問の中でも申し上げさせていただきましたように、商工会議所の皆様とお力を借りながら、こういった支援が必要なのか。例えば、資金調達の部分の支援であったりとか、メンターになるべき人がどこにいるのかとか、そういったところは民間のお力を借りながら市としてやっていきたいというふうに考えております。すみません、ちょっと具体性に欠けるかもしれませんが、こういった考えを持っております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） まだ就任されてから短いので、早く考え方をまとめていただいて、しっかり朝倉市を前に進めていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問ですが。女性を応援、就労と子育ての両立を実現というところでございますけれども。県内市町村において他に類を見ない特色のある教育環境を創出というふうに掲げておられますけれども、具体的にどのようなことを創出されるのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） まず、現在行っております特色のある教育につきまして、御説明をさせていただきたいというふうに思います。

小中学校におきまして、各地域や歴史や伝統、文化を活用した特色ある教育を行っている状況でございます。事例を言いますと、小学校では蜷城小学校で思いやりの心を育む青少年赤十字活動、三奈木小学校では美しい自然を残すための蛍学習、馬田小学校では地元特産の馬田うりの学習、立石小学校で頓田の森を題材としました平和学習、杷木小学校で防災学習などを行っております。中学校では、秋月中学校で稽古館の教えを活かしました学習、南陵中学校で太鼓や獅子舞いを披露する地域文化発表会など、それぞれの学校で特色ある取組を行っているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 今言われたようなことが就労と子育ての両立を実現するために必要と考えてありますか。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） もう少し具体的なことがないと、就労と子育ての両輪という部分、

その部分をもう少しどのように考えてあるか、市長、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 若い方が定住するときに、それから一時的に住まいを選ぶときは、やはり子育て世代であればどういった教育を子どもが受けられるのかというのは1つの判断の材料になるのではないかなと考えております。そういった中で、若い人たちに先ほど発信力ということを申し上げましたけど、関心を持ってもらうといえますか、刺さる教育施策というのは、私必要ではないかなと思っています。ですから、特色ある教育というのをやれば、若い人を朝倉市に呼び込むための大きな背中を押す材料になるというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 本当にそれだけで人が集まるでしょうか。その辺りもよく、まだ就任されて日が浅いので、その辺りをしっかり固めてもらって施策を講じていかれたらいいのではないかなというふうに思う次第でございます。

それでは次に、教育分野では、保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みを整え、外国語指導や英語教育の充実を図るとともに、朝倉市ならではの特色ある教育環境づくりを進め、朝倉愛を育む取組を図ってまいります、というふうにありますけれども、保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みとは具体的にどのように考えてあるのか、外国語指導や英語教育の充実とは具体的に何をするのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、声を聞くというのは、出前市長室で先ほど申し上げたんですけれども、その部分で対象者を絞って声を聞いていきたいというふうに考えております。

また、特色ある教育というのを先ほど申し上げさせていただいたんですけれども、稽古館の教えというのは非常に有名ですけれども、蜷城のジュニアレッドクロス、青少年赤十字活動であったりとか、そういったものは非常に地域の特色ある教育として、私は十分通用するのではないかなと思っておりますので、こういったものをもう少し拡充していきたいと思っております。

また、私は英語が個人的にも非常に好きなものですから、これから国際社会を迎えるに当たって、朝倉の子が大きく外に羽ばたいていきたいと思っておりますし、コミュニケーションを取るに当たって、英語というのは非常に有効なツールですので、全ての小中学校において英語教育の拡充というのは必要だと考えております。

これがまた特色ある教育に結んでいくと思っております。一番いいのは対面で先生とお話ができるのがいいんですけれども、なかなかそれは人員の問題もありますので、AIを活用した英語コミュニケーション。どうしても日本人は読み書きはできるけれども、しゃべるのができないというのが多いですし、また市民の皆様もしゃべれるようになりたいという声はよく聞きますので、そういった英語コミュニケーション能力の向上などについて

も、特色ある教育として検討していきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） 私は、英語とかは A I よりも直接顔を見て、直接会話をしたほうが絶対いいと思うんです。なぜかという感情が入っているから。A I は感情が入っていないので、それなりの当たり前のことを言うかもしれませんが、本心でこの人何を考えているんだろうとか言うのは、A I は分かりません。その辺りがやはり教育として私は対面のほうがいいのではないかなと。そして、A L T ですか、先生方が足りないという声は非常によく聞いているんですけど、その辺りの充実についてどのようにお考えをされているかお尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 鹿毛議員がおっしゃるように対面がやはり一番いいと思いますし、やはり人と人がコミュニケーションをとってその人の考えとかに影響を受けるというのは私も大事だと思っていますので、そういった意味では A L T、アシスタントラーニングティーチャー、これを必要だと思っておりますので、これについては当然予算化をしていかないといけないですので、検討をしていきたいと思っております。

1 つだけ私がどうしてもお伝えしたいことがあります。英語がうまいというのは、得てして発音がいいというようなことになりがちだと思います。私もよく英語で話をしていると、例えば石の上に 9 年とかそういうことを言う方がいらっしゃるんです。ん？って思うことがよくあるんです。やはりそこにはきちとした中身のある会話といいますか、そういうのがやっぱり必要ですので、発音だけが良くても良くないので、そこがきちとした土台となる国語力であったりとか、基礎学力というのは必要でありますので、その土台があった上での英語教育というふうに考えていますので。発音だけよいけれども、全然中身の無いことを話しているというのは、私は本当の英語教育ではないと思っていますので、そのところはきちと基礎の部分があった上での英語教育というのを目指していきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 9 番鹿毛議員。

○9 番（鹿毛哲也君） 市長、御存じですか。今の日本の英語教育は、文法ばかり教えてしゃべれないというのをよく聞くんですけど、それからすると、文法だけ教えてもしゃべれなかったら何もならないじゃないかと。私も 1 か月ほどインドに行ったことがあるんですけど、全然文法とか分からないけれども、会話は少しはできるようになりました。しかし、英語のできる人から、なんかなまっているねと。インドなまりの英語だそうです、私が覚えたのは。そのようなこともあるんで、私は両立。この文法ばかりは教えるんですよ、今、日本は。ですから、しゃべれる人がいないというふうなこともあるので、弊害としてあるので、その辺りも考慮しながら、英語教育もやっていただければというふう思う次第でございます。

それでは、次に移らせていただきたいと思います。出前情報公開の徹底推進についてというふうなことでございますけれども、行政情報は本来住民のものであるという原則を実現というふうに書いておられますが、いつからスタートさせて、どのようなやり方でやられるのか、再度お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先ほども述べさせていただきましたけれども、まず具体的には、この議会が終わって7月以降、各コミュニティを一番に回らせていただきたいと思います。そして、市民の皆様がふだん感じてあることを率直に聞きたいと思っております。出前市長講座は、市長室は1回回ったら終わりということではなくて、やりながら形をつくって何回もいきたいというふうに考えています。皆さんが話しやすいように、できるだけ市長と、できるだけ数の少ない職員で伺いたいと思っております。私と人事秘書課、古賀課長ですか、よく分かりませんが、一緒に回って、伺うことになるのではないかと考えております。

先ほども言いましたように、私は市民の皆様は、これから市政を運営していく上での重要なパートナーだと思っております。お力を借りたいと思っています。ただ、市民の皆様は残念ながら、行政の情報をお持ちでない。ですから、対等な議論がなかなか成り立ちにくいので、私が出前市長室をすることによって、こういう仕組みなんです、こうなっているんですよということをお話をいたしまして、そして、対等な未来の朝倉づくりというのをやれたらいいなと、そういうふうに思って、出前市長室は、ぜひとも力を入れてやっていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 私も甘木市役所の職員でしたので、歴代の市長さんがやられてきたのを存じ上げております。しかしながら、続いておりません。ですので、どのように続かせていかれるのか、意気込みをお聞かせ願いますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私も、実は妻から、あなたそういうことは言わないほうがいいんじゃないのと、きついよと、非常に怒られたりとか、いろんな要望が来たりとかして、大変なんじゃないのと言われたんですけども、やはり私は選挙の中で、公約としてお約束をいたしましたので、これは絶対に続けたいといけないうことだと思っております。この議会の場で続けてまいりますと、私が言うことが一番の自分への戒めになるというふうに考えておりますので、秘書課のほうにお願いをいたしまして、定期的に時間を確保してもらいまして、仕組み化していくようにしたいと思っております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひ続けていただければと思います。

それでは、次の質問に移らせていただきます。朝倉ブランドの推進でございますが、

3つのインターチェンジや甘木駅周辺の利便性向上とは具体的に何をどうされるのか。昨日の質問で高速バスの利便性を高めると言われましたが、具体的に何をどうするのかお伺いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、高速バスの周辺の整備なんですけれども、やはり高速バスに乗られる方は一定数いらっしゃるでしょうから、将来的になるんですけれども、駐車場の開発と言いますか、確保というのは考えていかないといけないと思っております。それなりのニーズがあると思いますし、私も議員になりまして、第1回目の一般質問はそれを話題にさせていただきました。そして、ここにいらっしゃる議員の皆様も何人も登壇されて質問されたというのは承知しておりますので、これは十分に検討する必要があるのかなと思っております。

朝倉市の利便性を上げるということは、朝倉市の住民のパイを増やすと言いますか、そういう形になりますので、それは考えていきたいと思っております。

そして、甘木駅周辺の開発は、これは朝倉市と言いますか、旧甘木市の大きな起爆剤になると考えておりますので、ぜひとも成功させていただきたいと思っております。ただ、キーマンとなられる鉄道会社の意向というのが大きく影響をいたしますので、そこは市長といたしまして、コミュニケーションを取りながら、できるだけ早くやりたいと思っております。

それともう1つは財源の問題があります。朝倉市の将来に大きなダメージにならないように、そここのところは規模をコントロールしていかないといけないと考えております。

それともう1つ、せっかくここに市役所が来ましたので、この市役所を中心とした、それから甘木駅を中心とした2つの核で、この甘木のまちづくりをしていければなというふうに、旧甘木市においては考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひしっかり進めていっていただきたいと思いますし、西鉄のほうも話は進んでいるんですか。その辺り、聞いてますか。駅舎の件です。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 鉄道会社との交渉につきましては、まだ私は市長としては詳細には把握をしておりません。ただ、どこかの時点で必ず御挨拶に行って、私の中島市長としてスタートを切らないといけないというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） どうも前に進んでいないんじゃないかなというふうな気がするんですけれども、そこがうまくまとまらないと次のステップに行かないんじゃないかなと思いますので、ここはぜひ市長が、もし知り合い等が西鉄のほうにあられるのであれば、探りを入れるなりお願いに行くなり、何らかのことをしていっていただきたいなと私は感じて

おりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次に、6番目の空き家対策等についてでございますが。水の清らかさを守る取組、国際交流や文化事業の振興、空き家対策や高齢化対応など具体的な対策をお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 空き家につきましては、私は将来の社会課題になるのではないかと考えております。ですから、空き家の現状を的確に把握しまして、現状を正確に認識することが重要だと考えております。基礎的な数字というのを把握しなければ、効果的な対策は打てないと考えておりますので、今議会で空き家の実態調査に関する補正予算を提案させていただいておりますので、議会の皆様にはどうぞよろしくお願いいたします。

そして、全戸調査を実施いたしまして、所有者へのアンケート調査などをいたしまして、評価を行って、点数化を行っていききたいというふうに感じております。昨日の議会でもお話しいたしましたけれども、空き家というのは、負の財産、市としてはマイナスの部分が大きくなるという懸念が将来あるわけなんです、これをプラスのほうに変えていくような、そういった施策が有効ではないかと考えております。地価が高くなっていきまして、それこそY o u T u b eで空き家を20万円で買ってリフォームしましたとか、そういうのがよく流れておりますので、若い方というのは、そういったところに面白みを感じて買っていただけの方もいらっしゃるんじゃないかと思っております。そういった居住対策、住居対策としての空き家の活用というのも十分考えられますので、まずは調査をすることが大事だと思っておりますので、それを進めていきたいと考えています。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 私の近所も空き家が何件かあったんですけど、新しい方が引っ越して来られてリフォームをされて住んでおられます。そのようになっていけばいいなというふうに思っておりますので、リフォームの補助金とかも多分朝倉市もあると思うので、そのようなのをやっていって。あんまり老朽化したのはちょっと駄目かもしれませんが、ちょっとリフォームしたら住めるようなところがあったら、その辺りいいんじゃないかなと。結構二、三軒か、三、四軒ぐらい新しい方が引っ越して来られています。そのような状況がありますので、ぜひこれも参考になさってください。

それでは、全体的ですが、このような公約の進捗管理、全体の。それはどのような形で行われるのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） これは、まず正直言ってお質問を受けるまでは考えていなかったんですけども。まずは、私自身が管理をするということが大事だと思っているんですが、どうしてもやはり自分で自分を評価するというのは難しいのかなと。公約が、進捗が遅かったらそこに言い訳をしてしまうような人間の弱さがありますので、1つはやはり議会の

皆様にチェックをしていただくということが必要ではないかと思っております。

それと、私どもの庁議のメンバーと言いますか、部課長クラスと一緒にチェックをしていくというような仕組みを作らないといけないのかなと思っております。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） 進捗管理も、市長を応援している方々も含めてどのようになってしまうのかというのは非常に興味を持たれると思われまいますので、その辺りは私たちに進捗管理でどう思うかというようなことでもいいですし、早急にその辺りの仕組みも考えていてもらいたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは最後ですが、林前市長が進めておられました米沢市との姉妹都市交流の推進についてでございますけれども、継続していくのか、またはやめるのか、市長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は初めて先日米沢に行かせていただきまして、甘木盆俄の講演がございました。これは本当にすばらしい講演で、米沢の市民の皆様には強烈な印象を残したと思います。そのセレモニーの中で、私は登壇をさせていただきまして、米沢市民の皆様の前で、林市長の米沢市との姉妹都市提携の運動は私も続けさせていただきますということを、宣言をいたしました。塚本市長から始まりまして、塚本市長、森田市長、林市長、私が4人目になりますので、100メートルリレーになっていたら私が最終ランナーですので、私がゴールを切りたいということを申し上げました。あとは、米沢市長と米沢市議会の皆様の御意向が大きいと思います。私は米沢市長には一生懸命ラブコールを送りたいと思っております。でもこれは議決事項だと聞いておりますので、朝倉市議会の議員の皆様にも米沢市議会との交流を重ねていただきまして、ぜひとも朝倉と姉妹都市提携を結ぶことについて、うんと言ってあげようというような関係を築いていただければ、力強い応援団になると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛議員。

○9番（鹿毛哲也君） ぜひ市議会としてもやれることをやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 9番鹿毛哲也議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午前11時58分休憩